

水道のはじまり

日本

明治20年 横浜市で近代水道がはじまる

新富町

昭和37年 富田地区へ給水開始

昭和41年 新田地区へ給水開始

昭和46年 富田地区と新田地区が合さる

昭和57年 浄水場完成

新富町の水道

水道を利用している人

13,729 (5,855世帯) (R4.4.1)

※新富町の人口は16,309人

水道を使う量 (R3実績)

1日平均 約4,500m³

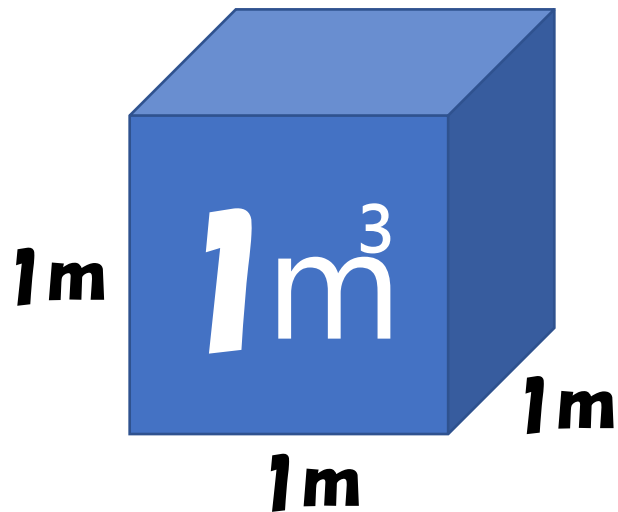
1日最大 約5,500m³

※7月～8月頃が一番つかう

プールでかんがえよう

浄水場で1日に水ができる量
最大8,525m³

1m³ (1立方メートル) とは



タテ1m×ヨコ1m×高さ1m
の立方体の体積

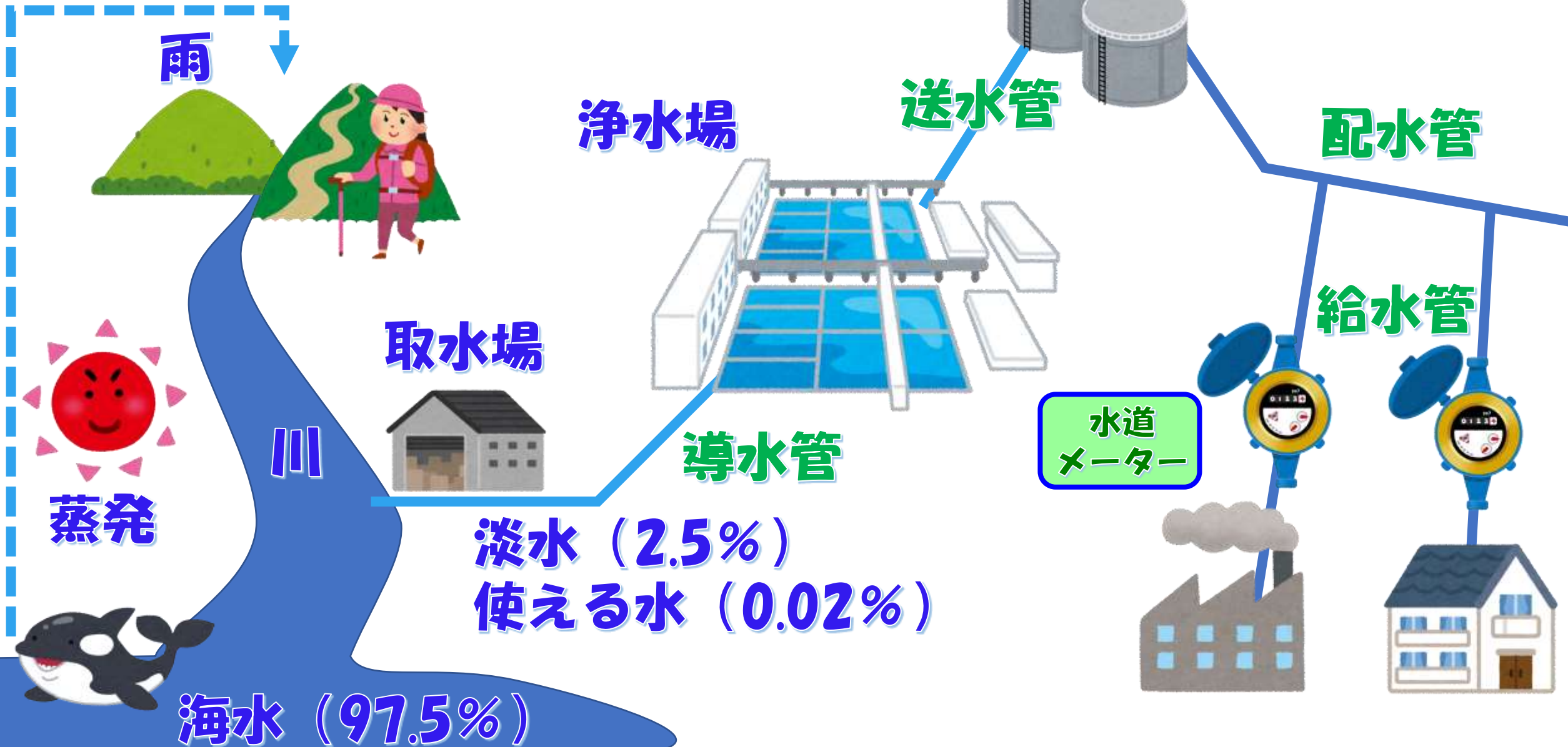


×約19個分

プール

$$25\text{m} \times 15\text{m} \times 1.2\text{m} \\ = 450\text{m}^3$$

水ができる仕組み



給水区域



配水系統図

配管総延長：約140km

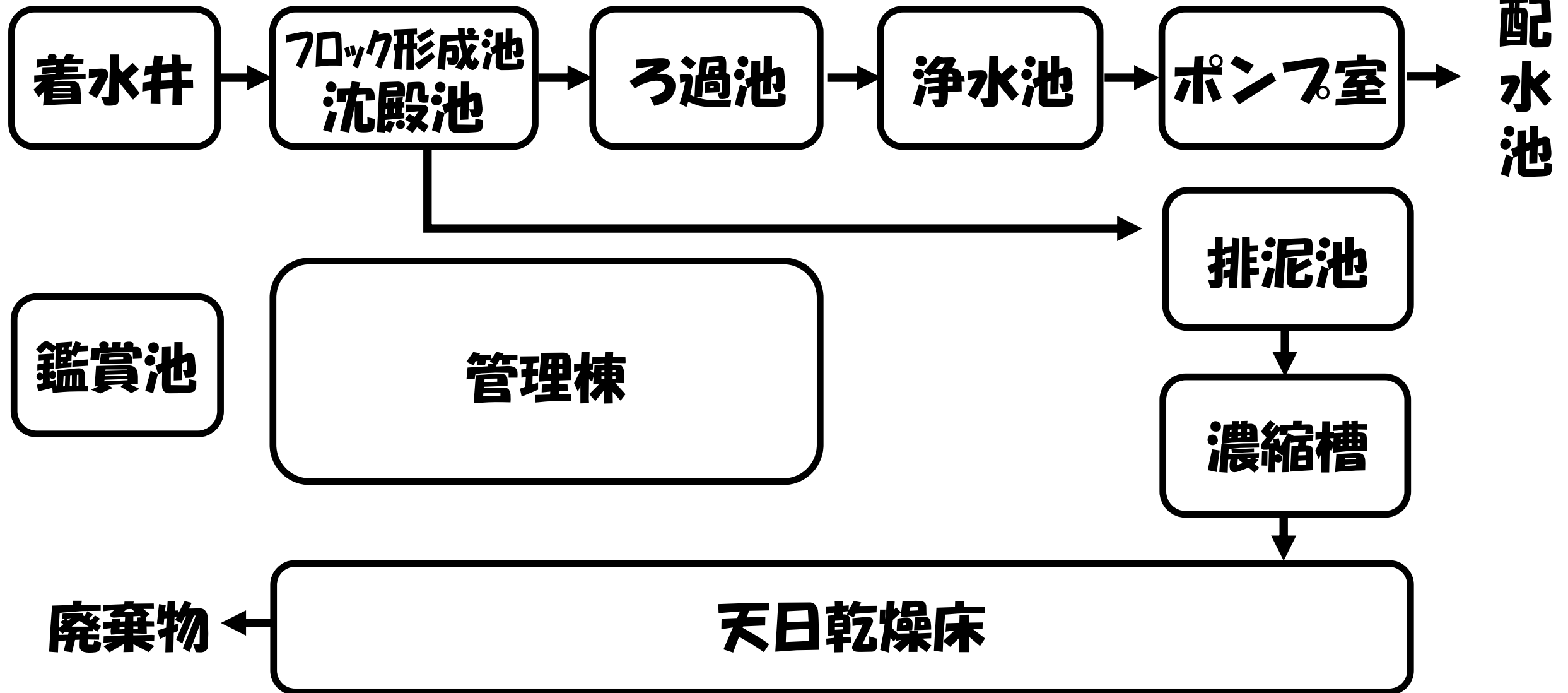


しゅすいじょう 取水場



一ツ瀬川から水をとってポンプで浄水場まで送る
水を送る管を導水管（どうすいかん）という

じょうすいじょう 浄水場



ちゃくすいせい 着水井



**浄水場ではじめに水が入ってくる場所
消毒薬とゴミを集める薬を入れてまぜる**

けいせいいち
フロック形成池



水をかき混ぜて、ゴミをぶつけて大きくする

ちんでんち 沈殿池



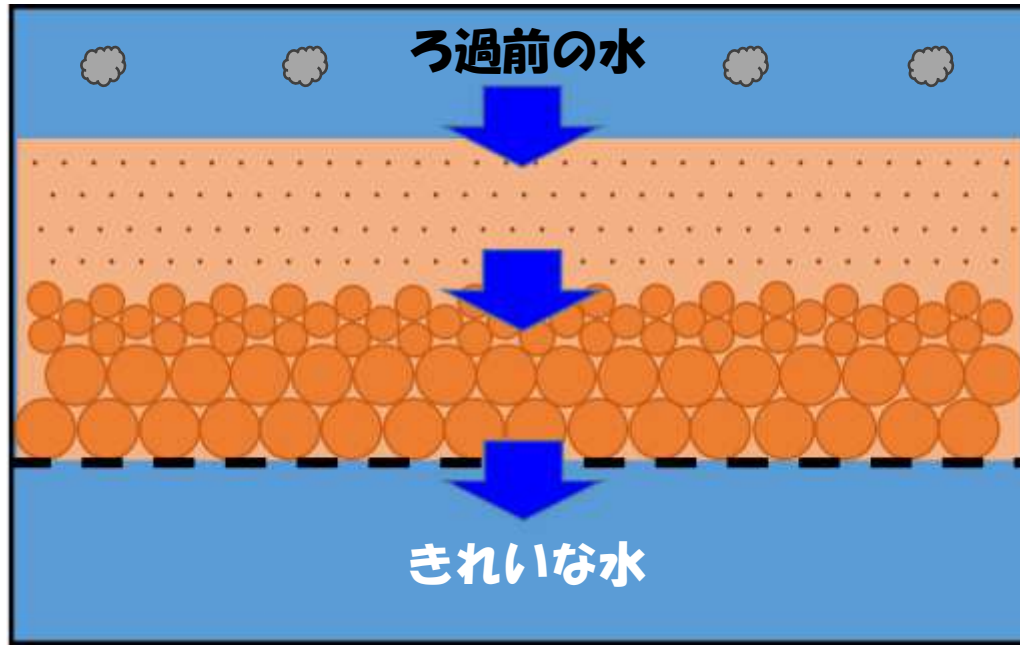
大きくなったゴミを沈め、上のきれいな水だけをとる

ろかち ろ過池



ろ過をおこない、水中の小さなゴミを取り除く

ろか ろ過って何？



砂や砂利や小石の間に水を通して小さなゴミをとる

じょうすいち

浄水池・ポンプ室



きれいな水を浄水池にため、ポンプを使って配水池に送る

はいすいち 配水池



配水池に水をため、工場や家に水を送る

はいでいち のうしゅくそう 排泥池・濃縮槽



**きたない水を排泥池に貯めて、濃縮槽に送る
濃縮槽でゴミを集め、天日乾燥床に送る**

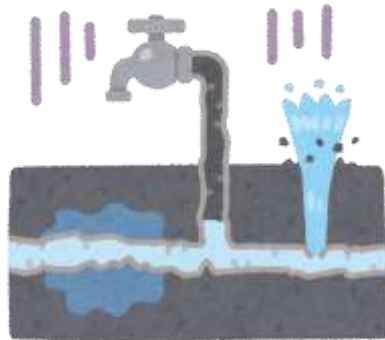
てんぴかんそうしょう
天日乾燥床



**ごみを太陽の光でかわかす
かわかしたゴミは廃棄物で処分する**

安全・安心な水

- いつでも水を使えるように、365日、一日中浄水場に人がいて、水をつくっている。
- なにかあったら夜中でも台風でも対応して、水が出るようにする。
- 施設や機械や管が古いため、新しくするのにお金がかかる。



水



を大切に!!!